

「2023年度中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学文学部2年 永田 悠

今回のプログラムを通して最も実感した変化は、語学学習への意欲です。留学ではお店や授業、留学生の友達との会話などにおいて、相手が話す中国語が聞き取れないということが多々ありました。また、何か言いたいときに単語が思い浮かばないということもしばしばありました。これらの経験を通して、これまでの自分の中国語学習でいかに単語の勉強をおろそかにしていたか、リスニングの勉強を放置していたかを痛感しました。そして、実用的な中国語能力を身に付けたいと真剣に考えるようになり、これまでの自分の語学学習を見直し、単語彙力増強やリスニングに重きを置いた勉強にシフトしました。また、留学時には、中国語に限らず、英語においても自分がいかに実用的な英語を身に付けることができているかを痛感しました。プログラムの一つに浙江大学の学生にむけた発表と、彼らとのディスカッションがありました。そのディスカッションは英語で行われていましたが、私は英語があまり聞き取れなかったり、自分の言いたいことを英語でうまく伝えられなかったりして、ディスカッションに十分に参加できませんでした。そのため、英語学習への意欲も芽生え、リスニング力の向上を目指し、リスニングの勉強を増やすことにしました。

プログラムでは平日は毎日2コマ語学の授業がありました。語学の授業はレベル別に6段階分かれており、私はレベル4で、精読、閲読、口語、作文の4種類あり、1コマ1時間35分でした。低いレベルでは英語が授業に用いられることもあったそうですが、私のクラスでは全て中国語が使用されました。また、週2回課外学習が行われました。第1回は紫金港甲校区と浙江大学芸術博物館を訪れました。第2回は河坊街を観光した後、銭江でライトショーを見ました。第3回は良渚博物院などを訪れた後、浙江大学の学生との発表とディスカッションがありました。第4回は中国シルク博物館と中国茶博物館を訪れました。また、2週目の金曜日には、午前中テストが行われ、昼には紫金港校区で昼食をふるまっていたかきながら修了式がありました。

進路について、これまでは、海外で働いてみたいという願望はわずかにありましたが、どこか現実離れしているように感じており、あまり真剣に向き合ってきませんでした。しかし、今回のプログラムにおける経験を通して、海外を今まで以上に身近に感じて海外で働くことを将来の選択肢として真剣に考えるようになり、また、海外で自分の語学がほとんど通用しなかったことから、自分の立ち位置が明確になり、自分がすべきことが明確になったように思います。